

〈報道関係のみなさま〉

特集「安倍1強」を斬る

「月刊 Journalism 6月号」発売!

株式会社朝日新聞社（代表取締役社長：渡辺雅隆）が発行する「月刊 Journalism」6月号が6月12日に発売となりました。

特集は「高い支持率、盤石の政権下で民意はどこに……『安倍1強』を斬る」です。対抗勢力が見当たらず、安倍内閣の1強が続く現在の政治状況を分析しました。

まず、逢坂巖・駒澤大学法学部准教授は過去の内閣支持率を分析し、安倍内閣が高支持率を維持している手法を読み解いています。飯尾潤・政策研究大学院大学教授は過去20年の政治改革を振り返り、政党政治の本質的危機とは何かを考察しました。吉田徹・北海道大学教授は各国の野党の役割を分析し、野党はもっと権力をチェックする役割を担うべきだと提唱しています。

今回は政治家インタビューも試みました。大島理森・衆議院議長、安住淳・民進党代表代行、志位和夫・共産党委員長の3人に、政党政治や立法府の在り方、野党共闘について聞きました。

このほか、森友学園問題をスクープした朝日新聞大阪社会部で豊中駐在だった吉村治彦記者が、1本のたれ込み電話をきっかけに地道な取材を続け、不自然な土地取引の存在を明らかにしていった過程を報告しています。

また、天皇の退位をめぐる有識者会議の座長代理を務めた御厨貴・東京大学名誉教授が、有識者会議の白熱した7カ月の真相を明かしました。

「月刊 Journalism」は2008年10月、研究誌をリニューアルする形で創刊。「世論ってどう作られるの?」（16年12月号）、「震災6年、原発と福島」（17年3月号）、「ポスト・トゥルースの深層」（17年5月号）など、さまざまな問題に取り組んでいます。

定価800円（税込み）、年間購読料は8800円（税・送料込み）。全国の書店、ネット書店、ASA（朝日新聞販売所）で注文によってお求めいただけます。

